

窓口における難聴高齢者・障害者情報アクセシビリティ コミュニケーション施策推進法に対する対策について

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
聴脳科学総合研究所
中石真一路

2023年11月30日



所長略歴

対話支援技術開発の第一人者 ヒアリングフレイル提唱者



ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社

取締役/聴脳科学総合研究所 所長 **中石 真一路**

南カリフォルニア大学ジェロントロジー学部修了（通信課程）
国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野 修士課程
山形県地域包括支援センター等協議会 アドバイザー

実の父と祖母が難聴であったことから、前職の大手レコード会社在職中に難聴者に聴こえやすいスピーカーシステムの研究に携わる。装用型の支援機器の限界を感じ、難聴でもコミュニケーションを諦めて欲しくないとの思いから、耳につけない対話支援システムコミュニケーションを発明



主な研究実績

- ・ 認知症の検査で難聴の有無による影響について調査研究実施

大学院での研究

- ・ 特別養護老人ホームでの難聴の実態とその配慮、コミュニケーション時の福祉用具利用の実態調査



約1,430万人

全人口の**約11.3%**にあたる方が難聴である

出典：Japan Trak 2018 調査報告

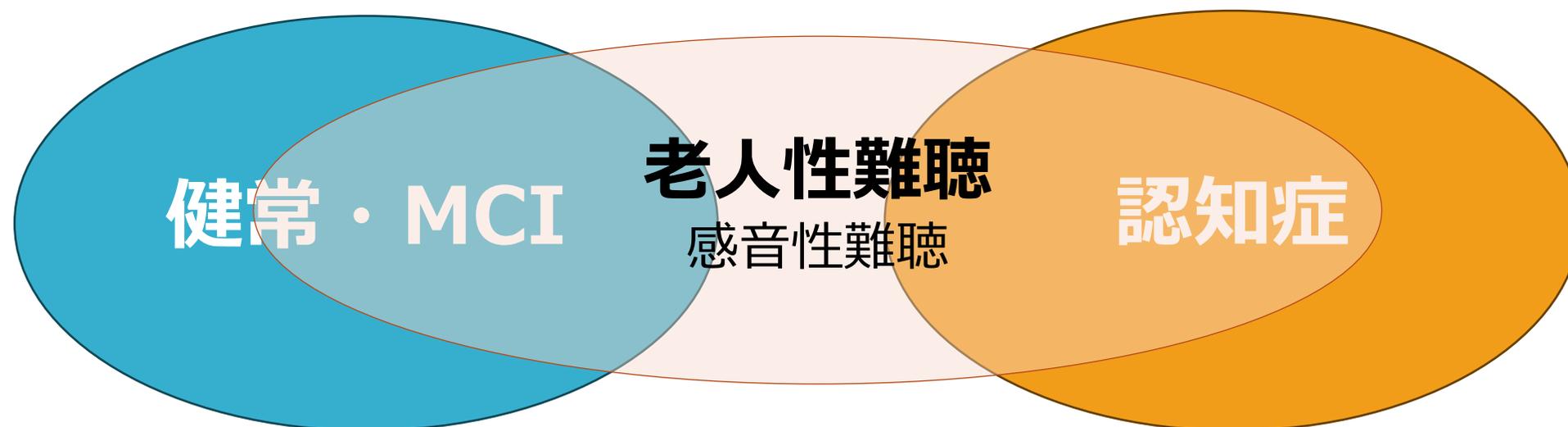
http://www.hochouki.com/files/JAPAN_Trak_2018_report.pdf

老人性難聴者の増加が要因



認知症の方が難聴でもある場合の影響を考えてみる

聞こえているが認知機能の低下で遂行が難しいのか？
聞こえの衰えで言葉が理解できず遂行が難しいのか？



認知症専門医でも判断が難しい・・・

難聴もあるけど、認知機能も低下しているから、聴覚の影響は軽視されている現状

大きすぎる声だと聞こえにくい難聴がある



正常の聞こえ



感音難聴の聞こえ

伝音性難聴

混合難聴

感音性難聴

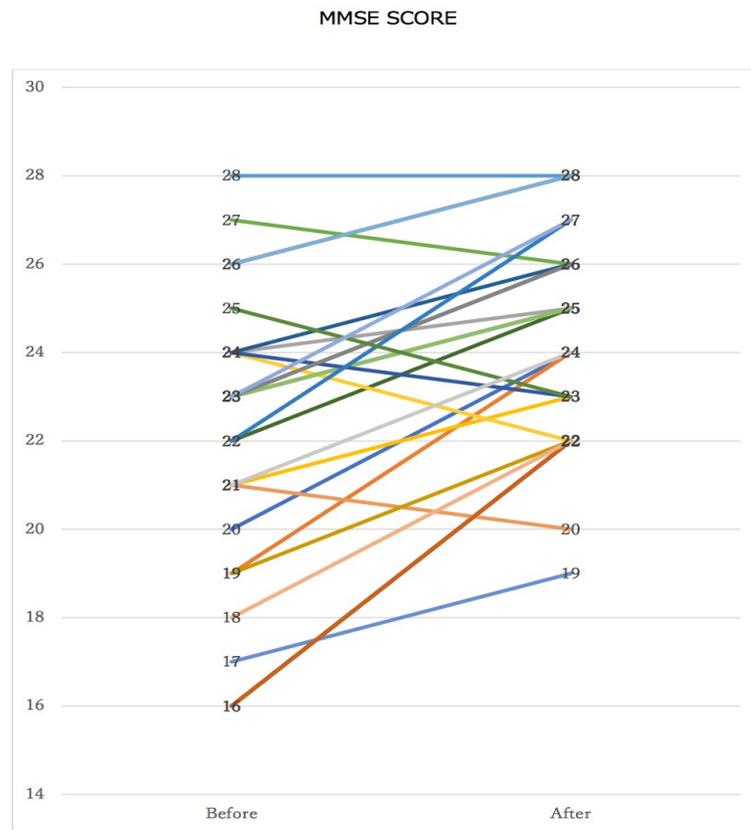


- ・ 高音域が聞こえにくくなったり、複数人の会話を聞きとることが難しくなる。
- ・ 大きすぎる声は聞こえにとって逆効果になることも。。。

聴覚理解低下が認知機能検査に及ぼす影響に関する実態調査

- 福岡大学 医学部神経内科学 教授 福岡市認知症疾患医療センター長 副病院長 坪井 義夫 先生

平成30年度 老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業



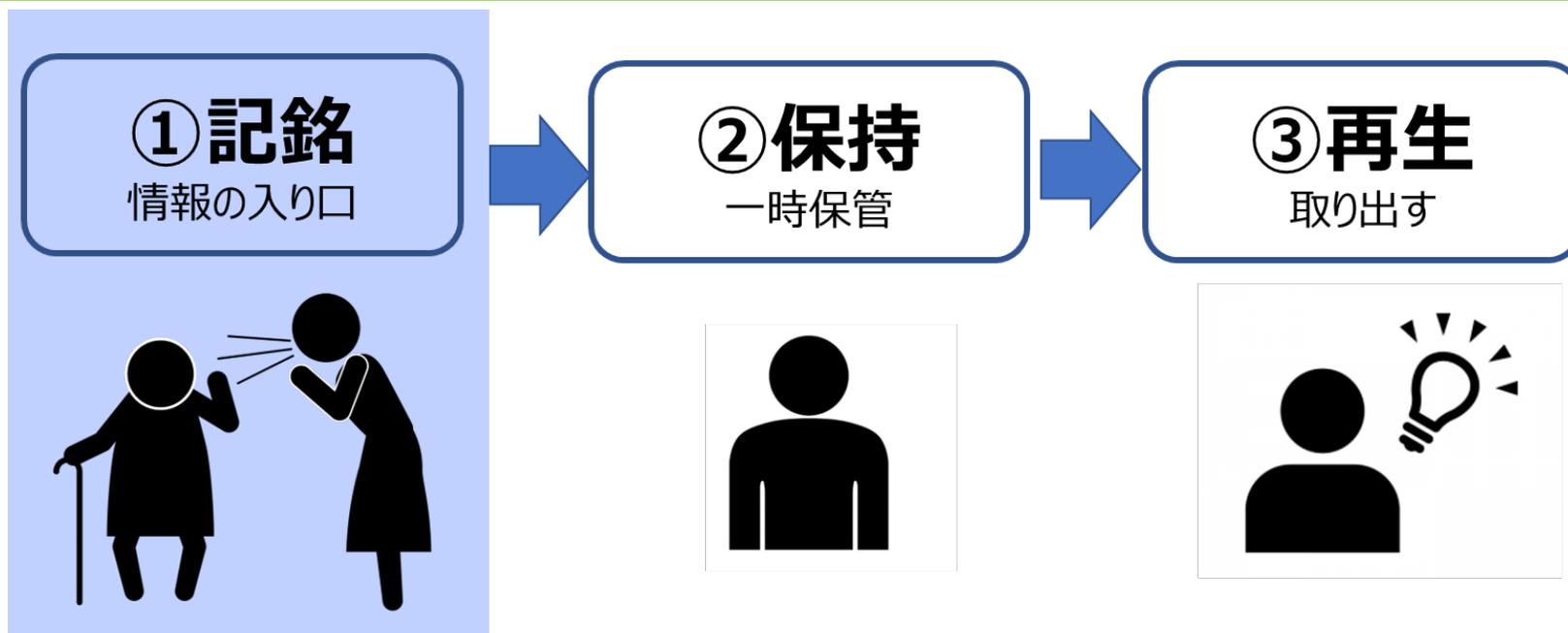
聴力低下が認知機能検査に与える影響調査を実施。認知症や軽度認知障害（MCI）と診断された75歳以上の高齢者27人に対し、コミュニケーションを使って再検査した。
 この結果、21人の検査結果が向上。平均2・2点アップ、6点上がった人もいた
77.8%の方が再検査においてMMSEの点数が改善した。聴覚の影響が示唆された。

点数がアップした症例数	21	77.8%
点数がダウンした症例数	5	18.5%



認知症検査における難聴の影響

記憶の3段階

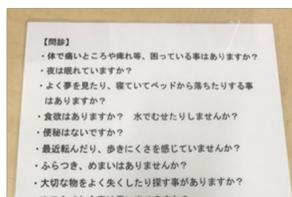


- ① 聴こえにくいと「記銘」がうまく行かない
- ② 間違った情報を「保持」もしくはできない
- ③ 記憶した正しくない情報を「再生」する

正しく記銘することを支援



① コミュニケーション
全員



② 文字
重度難聴者や聾者



③ 透明マスク
重度・高度聴覚障害の方

介護における難聴の影響

大きな声でも聞き取れない「感音性難聴」の存在

大きすぎる声での継続的なサポート



意思疎通できないと双方で諦め 対話機会の喪失

利用者の自尊心の低下と自信の低下につながる

言葉が聴こえればできることがたくさんある

高齢難聴の正しい理解と最適な「意思疎通支援」を学ぶ

知る

わかる

伝える

動く